

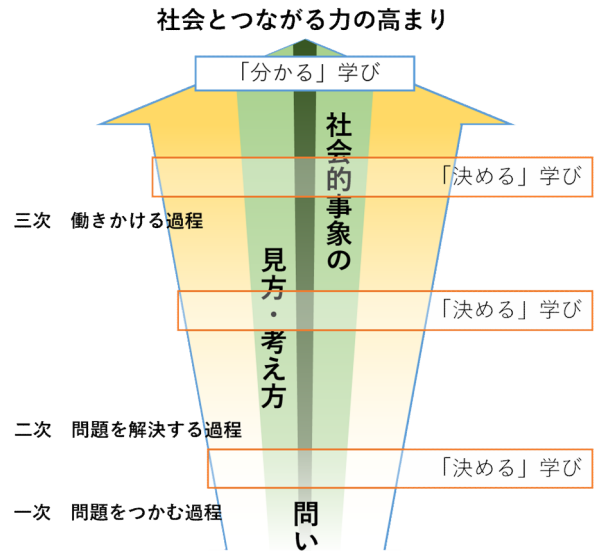
社会とつながる子供を育てる社会科学習

見方・考え方で分かる・決める学び

近年、知識・情報・技術をめぐる変化の早さが加速度的となり、情報化やグローバル化・AIの台頭といった社会的変化が、人間の予測を超えて進展するようになってきています。このような社会を生き抜く子供たちには、予測できない変化に受け身で対処するのではなく、様々な情報や出来事を受け止め、主体的に判断しながら社会と関わっていくことが求められています。また、学習指導要領からは、「社会的事象についての見方・考え方」を働かせて問題を追究・解決する学習が求められています。このような社会の要請や社会科教育が担うべき役割を勘案し、子供が「変化する社会の一員として主体的に問いをもち、多様な視点から考え、望ましい社会のしくみを追究する姿」を「社会とつながる子供」と考え、本主題を設定しました。

子供は皆、社会生活を送る中で、社会についての知識を積み重ねています。しかしそれは、経験則であったり、一部の情報源から見聞きしたものであったりすることが多く、曖昧なものです。そうした子供が、社会を構成する人間の働きに問いをもち、社会的事象の「見方・考え方」を働かせながら、社会についての知識を創り出す学びを充実させます（分かる学び）。その過程で、社会についての矛盾や人間の葛藤などを見だし、自分や社会の在り方を選択・判断することができる学びを多様に設定します（決める学び）。そうすることで社会的事象の「見方・考え方」を働かせて、望ましい社会のしくみや社会への関わり方を考え続ける子供を育成します。

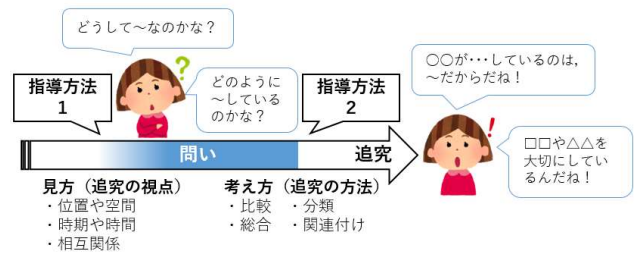
このような授業改善を図っていくことで、「社会とつながる子供」の育成を目指していきたいと考えています。



研究内容

(1) 「分かる」学びの工夫

「分かる」学びとは、複数の事実から社会についての知識を創り出すための学習活動です。「どのようにして～しているのだろうか?」といった社会的事象における事実を集める問いや、「どうして～しているのだろうか?」といった社会的事象の意味を考える問いを想定します。その際に、見方・考え方を働かせて問いをもつための「指導方法1」と、見方・考え方を働かせて問いを追究していくための「指導方法2」を開発します。



(2) 「決める」学びの工夫

「決める」学びとは、複数の考えから自分の考えを選択・判断するための学習活動です。「どうすれば～できるのだろうか?」といった自分の立場や社会における自分の役割を考える問いや「どっちが～にとっていいのだろうか?」といった社会的事象を構成する人々にとってよりよい考えを選ぶ問い、「どうして～を大切にしているのだろうか?」といった社会的事象を支える人々が重点を置いた価値や意義を考える問いなどを想定します。その際に、見方・考え方を働かせて問いをもつための「指導方法1」と、見方・考え方を働かせて問いを追究していくための「指導方法2」を開発します。

